



# リモコンの取り付け

## 警告

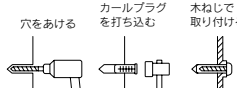
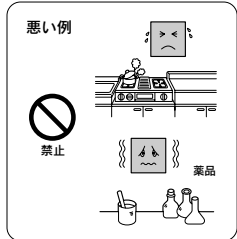
- リモコンコードが熱交換器やバーナー等の燃焼部・ヒータなどに接触しないように配線してください。
- 余ったリモコンコードは機器外でまとめ、機器内に入れないでください。
- また、リモコンコードを切断して使用する場合は、樹脂スリーブ付のY型端子を使用してください。

- この機器には別売のメインリモコン、ふろリモコン、サブリモコンが接続できます。
- 別売のふろリモコンは必ず取り付けてください。取り付けないと操作ができません。
- 機器とリモコンの接続は小勢力回路の工事に該当し、電気工事士の資格がなくても工事はできますが、電気設備に関する技術基準に従って工事を行ってください。
- リモコンコードは分電盤の専用スイッチを「切」にしてから接続してください。
- メインリモコンとふろリモコンの設置場所が近い場合に、インターホンを通話をするなどハウリング(キーン等の大きな音がする現象)を起こすことがあります。そのような場合はリモコンの設置場所や向きを変更してください。

## メインリモコン、サブリモコンの取り付け

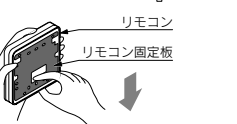
### ■リモコンの取り付け上の注意

- ガステーブル・こんろなどの燃焼器具の上部には絶対に取り付けないでください。
- 電気部品の故障・外装の変形をおこします。
- 炊飯器・電気ポットなどの蒸気・水滴、しゃ口からの水しぶきがかかる場所には取り付けしないでください。
- 直射日光のあたる場所には取り付けしないでください。
- お湯の使用頻度の高い場所(台所等)の近くに付けていただくとう便利です。
- 業務用薬品(アンモニア・イオウ・塩素・エチレン化合物・酸類など)を使用する場所に取り付けしないでください。
- ねじを強く締めすぎるとリモコン固定板が変形してリモコンが取り付けられなくなったり、ねじ穴が変形したりすることがありますので注意してください。
- タイル、コンクリート、モルタルなどの壁にリモコン固定板をねじ止めする場合は、付属のカールプラグを使用してください。

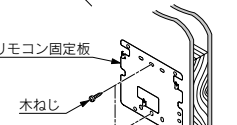


### ■リモコンの取り付け

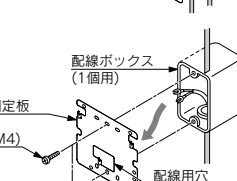
1 リモコン固定板を下にスライドさせ、リモコンからはずします。



2 リモコン固定板を壁に固定します。(リモコン固定板を使用しなくても取り付けられます。)

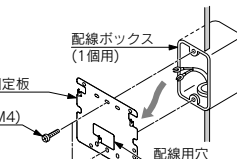


**露出配線の場合**  
壁の丈夫な場所(柱等)にリモコン固定板を付属の木ねじ(2個)で直接固定します。

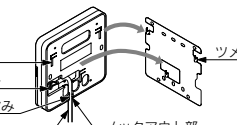


**埋め込み配線の場合**

- 1) 事前に壁内部に別売のリモコンコードを通します。
- 2) リモコン固定板の配線用穴を通してリモコンコードを引き出します。
- 3) 配線ボックスの取付ねじ穴にリモコン固定板の取付用穴を合わせ、取付ねじ(M4)で固定します。

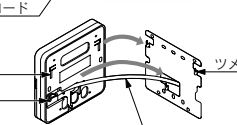


3 リモコンの基板の端子に別売のリモコンコードを接続します。リモコンコードは無極性ですので、+はありません。端子への接続時に無理な力を加えずに基板に傷をつけないように注意してください。電動ドライバーはリモコンのねじ穴が破損するおそれがありますので、使用しないでください。



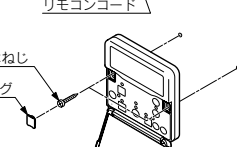
**露出配線の場合**

リモコン下部のロックアウト部を切り取り、そのくほみにリモコンコードを入れて、図のように端子にしっかりと接続します。



**埋め込み配線の場合**

リモコン固定板の配線用穴から引き出したリモコンコードを図のように端子にしっかりと接続します。余ったリモコンコードは壁穴に入れます。



4 リモコンを取り付けます。

**リモコン固定板を使用する場合**

リモコン固定板のツメ3カ所をリモコンの背面の溝に合わせ、上からスライドさせ固定します。



**リモコン固定板を使用しない場合**

リモコンのふたを開いてホールプラグをはずし木ねじでリモコンを壁に直接固定し、ホールプラグを取り付けふたを閉じます。



## ふろリモコンの取り付け

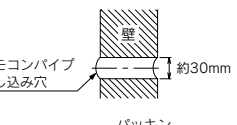
### ■ふろリモコンの取り付け上の注意

- 壁に穴をあけますので、内部の柱、鉄筋の位置を確認してください。
- ふろリモコンは防水加工されていますので分解しないでください。
- 水やお湯が直接かからない場所に取り付けてください。
- ふろリモコンの取り付け可能な壁の厚さは約40～210mmです。
- タイル、コンクリート、モルタルなどの壁にふろリモコンや防水カバーをねじ止めする場合は、ふろリモコン付属のカールプラグを使用してください。
- テレビユニットを取り付ける場合はテレビユニットの工事説明書に従ってふろリモコンを取り付けてください。

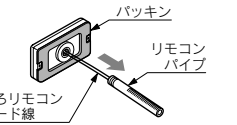
### ■ふろリモコンの取り付け

**リモコンパイプを使用する場合**

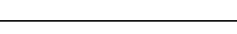
1 壁に直径約30mmの穴をあけます。壁に対して直角にあけてください。



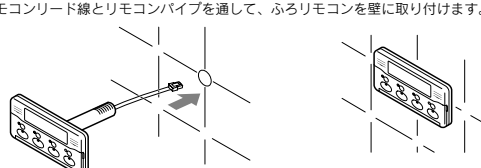
2 リモコンパイプを壁の厚さに35mm加えた長さに切ります。(ねじ部の長い方を切ってください。)



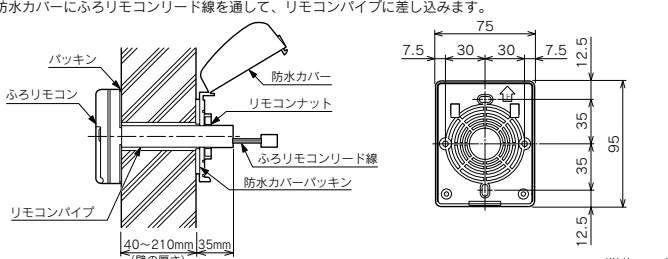
3 リモコンパイプにふろリモコンリード線を通します。



4 リモコンパイプをふろリモコンにしっかりとねじ込み、ふろリモコンのパッキンの裏紙をはがします。



6 防水カバーに裏紙をはがした防水カバーパッキンを貼り付け、反対側の裏紙をはがします。



8 防水カバーの上下を確認して、壁に防水カバーを取り付けます。

9 リモコンパイプにリモコンナットをしっかりと締め込みます。

**リモコンパイプを使用しない場合**

- 1 壁にふろリモコンリード線の通る穴(直径12mm以上)をあけます。
- 2 ふろリモコンのパッキンの裏紙をはがし、壁穴にふろリモコンリード線を通して、ふろリモコンを壁に取り付けます。
- 3 ふろリモコンのふたを開いてホールプラグをはずします。
- 4 ふろリモコン両側のねじ穴に付属の木ねじ(2個)で壁に固定し、ホールプラグを取り付け、ふたを閉じます。
- 5 防水カバーに裏紙をはがした防水カバーパッキンを貼り付け、反対側の裏紙をはがします。
- 6 防水カバーにふろリモコンリード線を通して、防水カバーの上下を確認し、防水カバーを壁に取り付けます。
- 7 付属の木ねじ(2個)で防水カバーを壁に固定します。

### ■ふろリモコン周囲のコーキング

- ふろリモコンの周囲をシリコン等でコーキングしてください。コーキングをしないとふろリモコン内部に水が入り、故障の原因になります。

### ■ふろリモコンコードの接続

**ふろリモコン付属のふろリモコンコードを使用する場合**

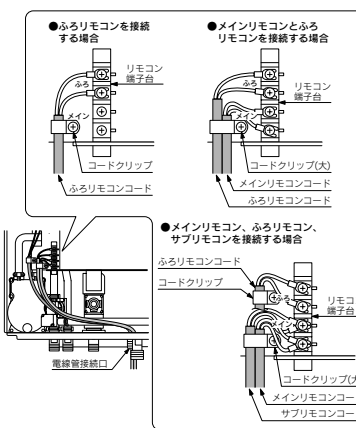
- 1 ふろリモコンリード線のコネクタと、ふろリモコンコードのコネクタを接続します。
- 2 防水カバーの中に余ったふろリモコンリード線とコネクタをおさめ、ふろリモコンコードを付属のコードクリップ(小)とタッピンねじで防水カバーに固定します。
- 3 防水カバーのふたを閉じます。

**市販のコードを使用する場合**

- 1 ふろリモコンリード線のコネクタを切り取り、ふろリモコンリード線と市販のコードの被覆を約5mm切り取ります。
- 2 ふろリモコンリード線の先端を付属の圧着接続子に差し込んでカシメ工具でカシメます。
- 3 市販のコードを圧着接続子に差し込んでカシメ工具でカシメます。
- 4 防水カバーの中にふろリモコンリード線と圧着接続子をおさめ、市販のコードを付属のコードクリップ(小)とタッピンねじで防水カバーに固定します。
- 5 防水カバーのふたを閉じます。

### 機器との接続

- 1 分電盤の専用スイッチを「切」にします。
- 2 機器の前パネルのねじ(4個)をはずし、前パネルを取りはずします。
- 3 機器底面の電線管接続口からリモコンコードを入れます。
- 4 リモコンコードを制御基板左横の4Pの端子台にそれぞれ接続します。リモコンコードは無極性ですので、+はありません。ドライバーなどが他の電子部品に接触しないように注意してください。
- 5 リモコンコードを本体付属のコードクリップで固定します。メインリモコン、ふろリモコンを取り付ける場合は、メインリモコン付属のコードクリップ(大)と一緒に固定します。メインリモコン、ふろリモコン、サブリモコンを取り付ける場合は、メインリモコンまたはサブリモコン付属のコードクリップ(大)でメインリモコンコードとサブリモコンコードを一緒に固定し、ふろリモコンコードは本体付属のコードクリップで固定します。また、余ったリモコンコードは機器内部に入れないでください。
- 6 前パネルをはずしたねじ(4個)で機器に元通りに取り付けます。



# 電気配線工事

## 警告

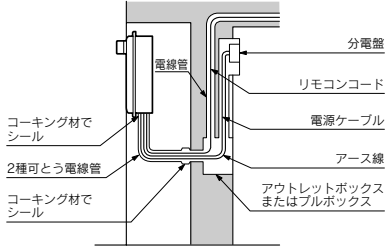
- 余った電源ケーブルやアース線は機器内に入れないでください。火災の原因になります。
- 電源ケーブルが熱交換器やバーナー等の燃焼部・ヒータなどに接触しないように配線してください。

### 1 電源周波数について

●本機は50Hz・60Hz共用です。

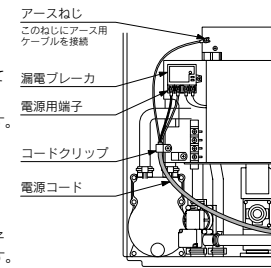
### 2 電気配線について

- 電源は必ずAC100Vを使用してください。絶対に200Vに接続しないでください。機器が破損します。
- 電気配線は電力会社の指定工事店に依頼してください。
- 適切な位置に電源コンセントがない場合、あるいはあっても位置や容量が適切でない場合は、新設、移設または交換となります。
- 配線は2種可とう電線管で保護し、パイプシャフト内では電源ケーブルおよびリモコンコードを切断して接続しないでください。
- 電線管がパイプシャフト内壁面を貫通する部分および機器との接続部分はコーキング材でシールし、パイプシャフトの外と気密が保たれるように設置してください。
- パイプシャフト内および内壁面には配線用ボックスを使用しないでください。ただし、防爆構造のものはこの限りではありません。
- パイプシャフト内の電気配線を行う場合は、電気設備に関する技術基準に従って防爆工事を行ってください。
- 分電盤にアースが接続できない場合は、D種接地工事を行ってください。



### ●パイプシャフト内の電源配線

- (1) 機器の前パネルのねじ(4個)をはずし、前パネルを取りはずします。
- (2) 電源コードを固定しているコードクリップのねじをゆるめてはずします。
- (3) 漏電ブレーカの電源用端子から電源コードを取りはずします。
- (4) 機器底面の電線管接続口から電源ケーブルを入れます。
- (5) 電源ケーブルの黒・白線を電源用として機器内の電源用端子に、他の色をアース用として図のねじをはずして接続します。
- (6) 電源ケーブルを電源コードを固定していたコードクリップで固定します。
- (7) 前パネルを元通りに取り付けます。



### 3 電圧低下について

- 電圧が低下すると故障・誤動作の原因になります。

### 4 接地(アース)について

- アース工事を確実に行ってください。
- アースが不完全な場合は、感電のおそれがあります。
- 機器底面に「E」表示でアースねじを表示してあります。電気設備に関する技術基準に基づき、D種接地工事を行ってください。(接地抵抗100Ω以下)
- アース線はガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。

**埋設に適する場所**

- 湿気の多い場所

**埋設を避ける場所**

- 地下埋設物のある場所(ガス管、水道管、地下ケーブル、引込管等)
- 避雷針や電話のアースから2m以内
- ガス、酸などで腐食するおそれがある場所
- 人通りの多い場所



# 設置工事後の点検・確認

- 設置工事が終わりましたら、もう一度確認してください。

### 1 機器およびその周辺

- 可燃物との距離および防火上の処置は充分ですか。
- 機器の設置場所の雰囲気は大丈夫ですか。
- 点検・修理など保守・管理に必要な空間がありますか。
- 設置条件を満たしていますか。



### 2 電気配線について

- 電源およびリモコンの配線は、指定された工事で行われていますか。
- リモコンコードの端子部のねじはよく締まっていますか。
- D種接地工事はされていますか。

### 3 給水・出湯配管について

- 給水元栓を開き、全ての給湯しゃ口を開いて水が出ることを確認した後、すべての給湯しゃ口を閉じ、しばらく放置して水漏れがないか調べてください。
- このとき分電盤の専用スイッチを「切」にしてください。

### 4 ガス配管について

- ガス栓を開き、各接続部にガス漏れがないか調べてください。

# 試運転

- 正しく設置されていることを確認した後、次の要領でお客様と一緒に試運転を行ってください。

### 1 試運転の準備

- (1) 給水元栓、ガス栓を全開にします。
- (2) 分電盤の専用スイッチを「切」にします。
- (3) 通水を充分行った後、給水元栓を閉じて、水フィルタにつまったゴミ・切粉などを取り除いてください。(取扱説明書参照)

### 2 試運転

- (1) 取扱説明書の「使用方法」に従って、試運転を行ってください。試運転は浴そうに水・湯がない状態で、ふろ自動運転から行ってください。
- (2) 正常運転するか確認してください。
  - バーナーの点火・着火・消火は確実ですか。(リモコンの燃焼表示を確認してください。) 初め点火する場合はガス配管内の空気が抜けるまで点火しません。点火するまで操作を繰り返してください。
  - 湯温調節はできますか。湯温が変化するかどうか確認してください。
  - ふろ自動運転は正常に作動しますか。お湯はり終了し、保温運転するまで確認してください。
- (3) 正常に運転しない場合は取扱説明書を参照してください。

### 3 試運転終了後の処置

- 試運転後、機器や配管に残った水をお客様が使用されるまで放置すると、凍結して機器が破損したり、熱交換器内の水が変質することがあります。必ず水を抜いてください。(取扱説明書参照)

### 4 お客様への説明

- 取扱説明書に従って取扱方法をお客様に説明してください。
- 保証書に必ず必要事項をご記入ください。また取扱説明書に従って「アフターサービス」について説明してください。
- 設置工事後、本書は取扱説明書(保証書付)とともにお客様にお渡しください。

# ガス配管工事

## 危険

- 誤ってガス接続口に給水配管を接続した場合は、そのまま配管を接続し直して機器を使用しないでください。ガス漏れ・爆発・火災の原因になります。

### 処置方法

もし誤って配管した場合は、ガス回路のすべての部品交換が必要です。

## 警告

- ガス配管はゴム管を使用しないでください。ガス漏れや火災の原因になります。

### 1 ガス栓

- 機器のガス接続口の近くには必ず機器専用のガス栓を取り付けてください。

### 2 ガス配管

- ガス配管径はR1/2(15A)です。
- 機器とガス配管を接続する場合は必ずユニオン継手を使用してください。
- ガス配管の接続はガス供給事業者の指定する工事店で、指定の材料・基準に従って工事を行ってください。

### 3 LPガス用容器について

- LPガスを使用する場合は50kg型容器を2本以上併設してください。
- 長時間の連続使用、他のガス器具との同時使用、冬期のガス発生量が低下することを考慮して適切に増加してください。
- LPガス用調整器はガス消費量に合った家庭用・業務用の低圧調整器を使用し、工業用の中・高圧用は絶対に使用しないでください。